

重点審議事項の論点整理について【環境・農水常任委員会】

重点審議事項	委員会における取組状況	主な論点	委員会における主な意見	備考
琵琶湖をとりまく環境の保全および循環共生型社会の実現について	<p>令和元年5月24日 常任委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度琵琶湖環境部の主要施策について <p>令和元年6月26日 常任委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・契約の締結につき議決を求めることについて（新琵琶湖博物館創造第3期展示制作および設置等業務委託） ・令和元年度「びわ湖の日」の取組について ・水草・オオバナミズキンバイ等の状況について 	<p>プラスチックごみについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、スーパー各店舗では、レジ袋を有料販売しているが、ドラッグストアやコンビニなど、さらに一歩前へ進めるべき取り組みを県として率先してこそ、取り組みが進んでいくと思うので、散在性の部分も含めプラスチックごみの軽減に向けて、取り組みを進めていただきたい。 ・規制をかけていくことは県民だけでなく事業者に対しても大きなPRをして、我々が率先してやっていくのだということを、琵琶湖を抱えている滋賀県では、やはり最重点でスピード感を持って取り組んでいただきたい。 	
	<p>令和元年9月11日 常任委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度有害鳥獣の捕獲状況と被害概要について 	<p>国立環境研究所連携推進事業について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国立環境研究所琵琶湖分室と琵琶湖環境科学研究センターが連携をして、どのような成果が上がっているのか、もっと県民に知っていただけるよう発信していただきたい。 	
	<p>令和元年11月6日～8日 県外行政調査（鹿児島県議会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・池田湖の全層循環について」（かごしま環境未来館） ・環境保全活動に係る取り組みについて」 	<p>びわ湖の日の取り組みについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの方々に滋賀の魅力を感じていただけるように、誘客する取り組みも必要である。 ・自然環境や、さまざまな形で琵琶湖の取り組みプラス観光で、さらに政策転換ができると思うので、来年度冊子の部数をさらにふやせないか検討していただきたい。 ・びわ湖の日の取り組みは、もっと民間のお店を巻き込んだ形で何かつくっていただきたい。 	
	<p>令和元年11月14日 常任委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・琵琶湖北湖の底層溶存酸素量の低下等について <p>令和元年12月16日 常任委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定希少野生動植物種および指定外来種の追加指定（案）に係る県民政策コメントの実施について 	<p>水草・オオバナミズキンバイについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・北湖では10年ほど前から極端に水草が減っており、同じような状況が南湖でも生まれているのではないかと。水草の増減の要因について、もう少し科学的に分析しないといけないのではないかと。 ・いろいろなパターンがあると思うので、生活環境を脅かさないために、どのような部分がいいのかもあわせて研究していただきたい ・漁業者を初め県民も関心の高いことなので、琵琶湖で何が起きているのか、幅広くしっかりと検証していただきたい。 ・駆除することも大切であるが、今後の方向性として、外来水生植物を琵琶湖から根絶する取り組みも検討していただきたい。 	

重点審議事項	委員会における取組状況	主な論点	委員会における主な意見	備考
	<p>令和2年2月12日 常任委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滋賀県域からの温室効果ガス排出実態（2017年度）について ・滋賀県低炭素社会づくりの推進に関する条例の改正について ・令和元年度における侵略的外来水生植物対策の取組状況について 	<p>低炭素社会づくりの推進について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・気候変動は大変敏感に取り組んでいかなければならず、県としての方向性を見出していくことはやはり大切である。琵琶湖環境部が中心になり、率先して取り組んでいただきたい。 ・各家庭におけるエネルギー消費量の構成が変わっていくので、各家庭の太陽光をもっと進めて全体的な大きな話よりも小さいことを積み重ねていかなければネットゼロの達成は不可能だと思う。ネットゼロに向けて取り組んでいかなければならないという意識をして、ムーブメントで終わらせないように取り組んでいただきたい。 	
		<p>底層溶存酸素量の低下について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の課題として、漁業も含めて、何らかの対策を講じておくべき段階にある。一旦全層循環が行われない湖になると、生物の生息が観測できない事例も他県であることを踏まえると、琵琶湖に対して、全層循環を含めて県の施策として取り組むべき課題の一つである。 ・気温、表層の温度、底層の温度などの過去のデータをみながら、大体どれぐらいの温度差があれば全層循環が起こるのかといった分析も必要である。 ・水深何メートルにどういう生物がいるのか、具体的に、生態系、気温、水温、水質などいろいろな部分を調査・分析をしていかなければ、今後の対応策も見出してこれられないと思う。今後、異常気象の中で夏場の高温が進んでいけば、琵琶湖の水温が全体的に上がってきたときに、どう影響するかということにも着目しながら、魚介類に加えて水草やプランクトンなどの生態系にも影響を及ぼすかもしれないので、研究を進めていただきたい。 ・これからの対策を、この10年間だけの判断だけではなく、もう少し長い目で見たときに琵琶湖がどう変わってきているか、今後調査を行い、データの整理をして報告していただきたい。 	

重点審議事項	委員会における取組状況	主な論点	委員会における主な意見	備考
「やまの健康」の推進について	令和元年5月24日 常任委員会 ・令和元年度琵琶湖環境部の主要施策について ・(仮称)「やまの健康」構想について ・伐る！から始める「びわこ令和の森づくり」プロジェクトについて ・第72回全国植樹祭の開催準備状況について 令和元年7月24日 県内行政調査(滋賀鋳産株式会社) ・事業概要について(伊吹山) ・伊吹山の環境について ・伊吹山を守る自然再生協議会の取り組みについて	全国植樹祭について	・全国植樹祭は、数年後に迫っており、県民総ぐるみとうたっている以上、県民の皆さんをいかに巻き込んでいくのか。子供からお年寄りまで、またいろいろな分野の方に理解していただいて、これからの森林政策にもつなげていただきたい。 ・1人でも多くの県民の皆さんに植樹の必要性や、大会スローガンの趣旨にうたわれていることを共通理解してもらえるように努めていただきたい。 ・林業を進めていくのは、大変難しい課題だと思う。イベントで終わるのではなく、全国植樹祭を行うことによって森林政策が少しでも前に進むようにしていただきたい。	
	令和元年8月8日 常任委員会 ・公社造林あり方検討会における検討状況について 令和元年9月11日 常任委員会 ・第72回全国植樹祭の開催準備状況について 令和元年10月7日 常任委員会 ・公社造林のあり方について ・琵琶湖森林づくり条例の改正および琵琶湖森林づくり基本計画第2期の策定について	公社造林について	・材をどれだけ生み出すかというところもすごく大事なので、将来的にしっかりと対策をとっていただきたい。抜き伐りという形で上手に育てながら切っていただくことが、将来的にもつながっていくことになる。その際に担い手の高齢化の問題もあるので、人材確保をしっかりとしていかなければならない。 ・木材の伐採で、いかに収益を上げていくかは、滋賀県全体の森林の産業化、その中でも公社の造林も経営にプラスになるようにぜひとも研究していただきたい。	
	令和元年12月16日 常任委員会 ・琵琶湖森林づくり条例の改正および琵琶湖森林づくり基本計画(第2期)の策定について 令和2年2月12日 常任委員会 ・第72回全国植樹祭の開催準備状況について	琵琶湖森林づくり条例および琵琶湖森林づくり基本計画について	・市町の意識を高めていくためにも、所有者の関係や対応が県では取りにくいところもあるので、市町と一緒に前に向かっていけるような形にしていきたい。 ・山によって森林づくりの目的が変わってきているように思う。地域づくりをしていくにも、地域的な課題が各地によってさまざまあり、その辺りを少し整理したほうが、スムーズにそれぞれの山や地域が活性化していくのではないかと。	

重点審議事項	委員会における取組状況	主な論点	委員会における主な意見	備考
<p>力強い農林水産業の確立と活力ある農山漁村づくりについて</p>	<p>令和元年5月24日 常任委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度農政水産部の主要施策について ・アユの漁獲と資源状況について ・伐る！から始める「びわこ令和の森づくり」プロジェクトについて <p>令和元年6月27日 常任委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アユの漁獲と資源状況について ・三重県における野生イノシシ豚コレラ陽性事例に伴う本県の対応について 	<p>(仮称) 持続的で生産性の高い滋賀の農業推進条例について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・農業系廃プラスチックは、農業者の努力義務にしていこうと記載されている。きちんと管理できればいいが、緩効性肥料の殻など農業者の意思にかかわらず勝手にごみとして出ていってしまう可能性もあるのではないかな。 ・新しい条例を多くの生産者に受け入れられるような取り組み、アプローチをしていただきたい。 ・名称が分かりにくいので、県民や農業者にとって分かりやすい名称にすることが必要である。 ・最前線で滋賀の農地を守って一生懸命やっていたりしている方を応援するための条例にしていきたい。 	
	<p>令和元年7月24日 県内行政調査 (滋賀県水産試験場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の概要と取り組みについて <p>令和元年9月11日 常任委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豚コレラの発生拡大に伴う対策強化について 	<p>環境こだわり農業について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・麦も大豆も有機にしていくことは、相当難しいと思う。そのためには、地域で取り組む形にしていけないと広がりもないと思うが、改めて地域で取り組むために、もう一步考えていただきたい。 ・環境こだわり農産物の認知度を上げるためには、野菜の部分を広げてしっかりと打ち出していくことも必要である。 	
	<p>令和元年10月4日 常任委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滋賀県農業・水産業基本計画の進行管理および次期計画の策定について ・環境保全型農業直接支払交付金について ・滋賀の農業振興に関する新たな条例の方向性等について ・アユの産卵状況と増殖対策について <p>令和元年11月6日～8日 県外行政調査 (有限会社新福青果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマート農業の取り組みについて ・(J A宮崎中央 宮崎繁殖センター) ・キャトルセンターの取り組みについて 	<p>米の作柄状況について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・米の作柄状況については、技術の問題であれば、研修で高めていけばできるが、滋賀県の北と南で気候が違う場合に、みずかがみで品質に大きくばらつきがあるようだとして今後対策を考えていくことも必要かと思う。そのためにも中生品種の早い開発が待たれている。 ・農家の方も、予測しがたい気候変動が影響していることを肌で感じておられるので、技術指導や品種改良を進めていただきたい。滋賀県は米の生産に対して、技術力は高い評価を受けているので、より一層磨きをかける意味でも、気候変動に対応できるように県の指導と品種改良を十分に取り組んでいただきたい。 	
		<p>担い手育成について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの業界で担い手不足があるので、ぜひともいろいろな形でアプローチして担い手の育成に努めていただきたい。 ・滋賀の農業に魅力を感じている新しい担い手がふえているので、これからは担い手の確保、育成を進めていただきたい。 	

重点審議事項	委員会における取組状況	主な論点	委員会における主な意見	備考
	<p>令和元年11月14日 (立命館大学食マネジメント学部の学生の皆さんと県民参画委員会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生としての活動と、滋賀県の環境・農水に関わる期待や課題について (もりづくりアカデミー) ・もりづくりアカデミーの取り組みについて <p>令和元年12月13日 常任委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年産米の作柄・品質と今後の対策について ・令和2年産米の生産目標の設定について ・(仮称) 滋賀県持続性の高い農業生産活動の促進に関する条例(骨子原案)について ・CSF(豚コレラ)対策の取組状況について ・アユの資源と早期アユの漁獲状況について <p>令和2年2月12日 常任委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アユの資源と漁獲状況について 	<p>豚熱対策について</p> <p>アユ資源について</p> <p>もりづくりアカデミー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・野生イノシシの捕獲は、猟友会等にも協力していただくが、高齢化が進んでいく中で、もう少し狩猟免許の取得促進も含めて、全体的に今後の対策について、長期的な視点も兼ねて考えていただきたい。 ・登山をされる方などにも周知をして、もし野生イノシシが死んでいたら通報してもらえようような情報伝達の仕組みを築いて、対応・対策をとっていただきたい。 ・今後の物流や流通の部分で豚熱による風評被害もすごく心配なので、畜産農家の皆さんが安心されるようにそういった対策もあわせて考えて、先手で取り組んでいただきたい。 ・豚へのワクチン接種をするに当たり獣医が1人分補正予算で上がっているが、本当にそれで十分対応し切れるのか。長期的におよぶのなら、やはりどこかの時点で正職員をふやすことも考えなければならない。 ・山の中や山の周辺などで作業をする方がおられるので、豚熱についてチラシなどを渡してしっかりと周知していただきたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・エリが少ないという話だが、水産行政でエリを復活するための政策や、方向性も考えていくことが必要ではないか。 ・魚が総体的にふえていないこと背景には、琵琶湖で魚が育ちにくくなっていることがあるのではないかと思う。琵琶湖全体として、栽培漁業でホンモロコ、ニゴロブナ、あるいは人工河川でアユの増殖事業をやっているが、増殖事業をしていない魚種はかなり減っているのではないか。 ・早期のアユ漁業が非常に衰退していると思う。早期のアユは主に養殖用のアユとして出荷されるが、需要が減ってきているので、需要をふやすための取り組みもしていただきたい。 ・昨今のアユ資源の激減についても、気候変動が少なからず影響しているのではないか。今後、対策を講じることも検討していただきたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・林業就業者数が年々厳しくなっている状況である。木を切ることは専門家でなければできないため、林業にかかわる方々にしっかりと着目して、林業就業者数をふやすための取り組みをしていただきたい。 	